

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第14回 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 議事録

1. 日時 2010年2月17日(水) 13:30~15:50
2. 場所 日本原燃(株) 東京事務所 第一会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略) 開始時
(出席委員) 川上(主査), 片寄(幹事), 柏木, 黒澤, 佐々木, 宿谷, 市毛, 高橋(15:00~退席), 田中(明)(田中代理), 七田, 亀尾, 三宅(中田代理), 中山, 見上, 森本, 山田, 渡邊(17名)
(欠席委員) 岩崎(副主査), 福村(2名)
(常時参加者) 浅野, 飯田, 小林, 石川, 尾崎, 本山(13:45~出席), 林, 三根, 山田, 北島, 中野(11名)
三宅(中田代理)(1名)
(常時参加者候補) 辻, 松居(2名)
(欠席常時参加者) 中瀬, 石屋, 武部, 杉山, 向原, 能浦, 野村, 大間(8名)
(傍聴) 森山, 吉田(2名)
(事務局) 谷井
4. 配布資料
F10Ph2SC14-1 前回議事録
F10Ph2SC14-2-1 原子燃料サイクル専門部会活動状況
F10Ph2SC14-2-2 標準委員会の活動状況
F10Ph2SC14-3 人事について
F10Ph2SC14-4-1 「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順」(案) 標準委員会書面投票コメント対応案
F10Ph2SC14-4-2 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順案の主な改定箇所について
F10Ph2SC14-4-3 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順標準本体/附属書/解説案(修正版)
F10Ph2SC14-5 ピット処分対象及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の概要について(案)
F10Ph2SC14-6 分科会の今後の予定について(案)
F10Ph2SC14-参考-1 第39回標準委員会本報告審議結果
F10Ph2SC14-参考-2 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順案 本体

4章, 5章の変更案の比較について

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、開始時点で委員 19 名中、代理委員を含めて 17 名の出席があり、決議に必要な委員数（13 名以上）を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録案の確認 (F10Ph2SC14-1)

事務局より、前回議事録案について、事務局より事前に配布したものに出席者名等の修正がある旨の説明があり、承認された。

(3) 原子燃料サイクル専門部会の活動状況 (F10Ph2SC14-2-1)

事務局より、原子燃料サイクル専門部会の活動状況について報告された。

(4) 標準委員会の活動状況 (F10Ph2SC14-2-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について報告された。

(5) 人事について (F10Ph2SC12-3)

① 報告

委員退任

事務局より、中田 幹裕氏(三菱重工(株))の委員の退任報告があった。

② 承認

委員選任

事務局より、新委員として、三宅 裕介氏(三菱重工(株))が推薦されている旨紹介され、決議した結果、新委員に選任された。

常時登録参加者登録

事務局より、辻 智之氏（（独）日本原子力研究開発機構）及び松居 祐介氏（㈱テプコシステムズ）が常時参加者登録を希望されている旨紹介され、決議した結果、常時登録参加者として登録された。

(6) 標準委員会書面投票コメント対応案及び標準本体/附属書/解説案（修正版）について (F10Ph2SC14-4-1, 14-4-2, 14-4-3, 14-参考-1, 14-参考-2)

片寄幹事より、F10Ph2SC14-4-1, 14-4-2, 14-4-3, 14-参考-1, 14-参考-2 に従い、“余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順案”の第 39 回標準委員会への本報告／書面投票のコメント対応案、及び当該対応案を踏まえた標準本体／附属書／解説案の修正内容について説明があり、以下の議論を踏まえて修正を行い、原子

燃料サイクル専門部会（3月3日予定）及び標準委員会（3月12日予定）に、修正版として報告することで了承された。

- F10Ph2SC14-4-2 の No. 37, No. 38 の図 B. 7, 図 B. 8 の修正において、図のタイトルを“…高速中性子フルエンス率に対する熱中性子フルエンス率の比”などに修正しているが、図は高速中性子フルエンス率の熱中性子フルエンス率に対する比を示しているため、F10Ph2SC14-4-1 の No. 9 の対応案の記載と整合を図り、“BWR チャンネルボックスでの高速中性子フルエンス率の熱中性子フルエンス率に対する比”と修正する。
- F10Ph2SC14-4-2 の No. 50 の表 E. 6 の数式記号の説明において、“熱中性子束”と表現されている箇所があり、“熱中性子フルエンス率”に修正することと同様の記載が附属書 C にもあることから、こちらも記載を合わせる。
- F10Ph2SC14-4-2 の No. 6 の「6.3 数値の丸め方」において、“…を丸めてもよい”を“…を丸めるときは大きめにとる。”と見直しているが、断定表現のため、修正前にあわせて“大きめにとってもよい。”に修正する。

(7) ピット処分対象及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の概要について (F10Ph2SC14-5)

北島常時参加者より、F10Ph2SC14-5 に従い、ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の概要について説明があったが、現時点では検討の方向性等が明確でないため、以下のコメント等を踏まえ、全体的な見直しを行うこととなった。

- 評価対象物の分類は、廃棄物の種類と発生時期、放射能評価のタイミング（時系列）が関係しているものの、それらが整理し切れていないため、これらを明確にした上で、放射能評価の特徴などの観点から適切な見直しを行うこと。
- 評価対象廃棄物には、放射能評価上の性質として、放射化、汚染、両者の混在があるが、これらの判断方法（境界条件の設定）なども検討に加えることが必要となる。
- 放射化した廃棄物には、余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順案の組成比法（濃度比法）を主体的に適用するのであれば、原子炉内で発生する余裕深度処分対象廃棄物とは照射条件などが異なる（Co-60 等の比較的短半減期核種の減衰、炉外の中性子フルエンス率の影響など）ため、適用するための境界条件を明確化すること。
- 「2.2 評価対象となる放射性廃棄物の発生源」は、章タイトルが記載内容とあっていないため、見直すこと。
- 測定による方法として、原廃棄物分析法と廃棄体破壊分析法が記載されているが、実際の廃棄物に適用する具体的なイメージはあるのか。

(8) 分科会の今後の予定について(F10Ph2SC14-6)

片寄幹事より、F10Ph2SC14-6に従い、今後はピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の検討を主体的に進め、2010年末頃を目途に中間報告用資料を取りまとめる予定である旨、説明があった。また、主な議題等については、本日の分科会の議論を踏まえ、適宜、見直すこととした。

なお、余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順案の公衆審査の結果等についても、適宜、議題に加える旨、あわせて説明があった。

6. 次回の予定

次回分科会は、2010年4月頃とし、具体的な開催時期等については、別途、調整する。

以 上